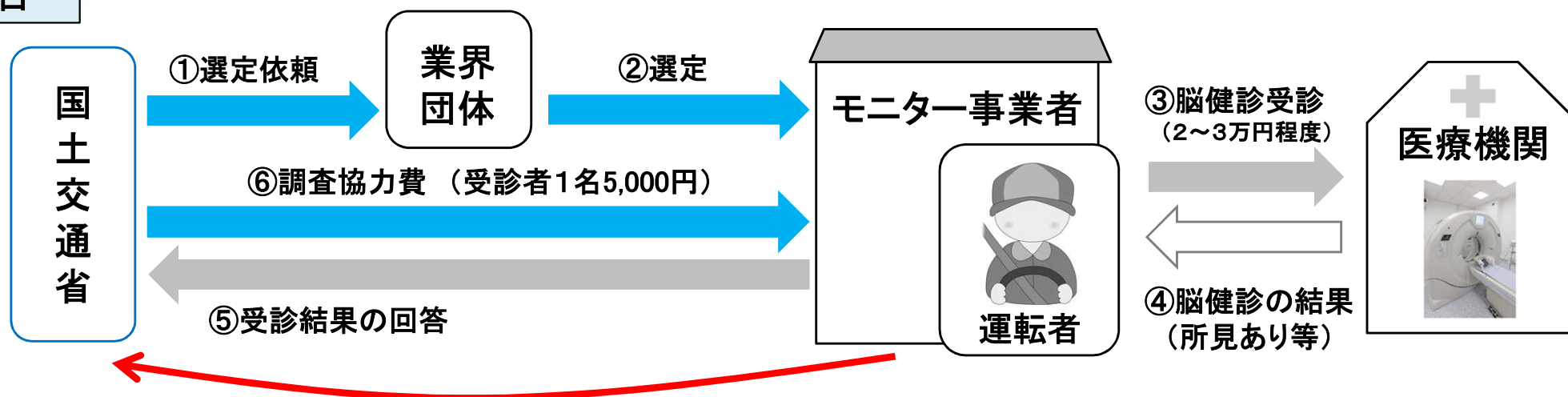


自動車運送事業者への 脳健診普及に向けたモデル事業の結果

令和3年度 事業用自動車健康起因事故対策協議会

- 健康起因事故防止のため、脳疾患の早期発見に有効とされるスクリーニング検査に積極的に取り組みたいと考えている事業者の中からモニター事業者を選定。
- 脳血管疾患対策ガイドラインに沿って、モニター事業者の運転者がスクリーニング検査を受診（H30:約1,200名、R1:約4,000名、R2:約4,500名）。
- 脳健診の受診結果やその後の脳血管疾患の発症や治療の有無、勤務制限状況などについて調査（3年間）を実施。

1年目



2・3年目

【追跡調査】

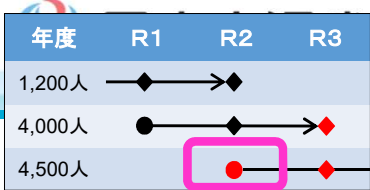
事業者から国交省に対し、(1)脳健診受診運転者(所見あり)に係るその後の脳血管疾患の発症や治療の有無、(2)当該運転者の勤務制限状況、(3)各事業者の取組意識の変化、を回答。

脳健診受診
運転者合計
約10,000人

年度	H30	R1	R2	R3	R4
平成30年度 受診 約1,200人	● 脳健診受診	◆ 追跡調査 (1年目)	◆ 追跡調査 (2年目)		
令和元年度 受診 約4,000人		● 脳健診受診	◆ 追跡調査 (1年目)	◆ 3. 追跡調査 (2年目)	
令和2年度 受診 約4,500人			● 1. 脳健診 受診	◆ 2. 追跡調査 (1年目)	◇ 追跡調査 (2年目)

本資料では赤字項目についての概要を
令和2年度受診、令和元年度受診の順に説明

1. 令和2年度 脳健診受診結果

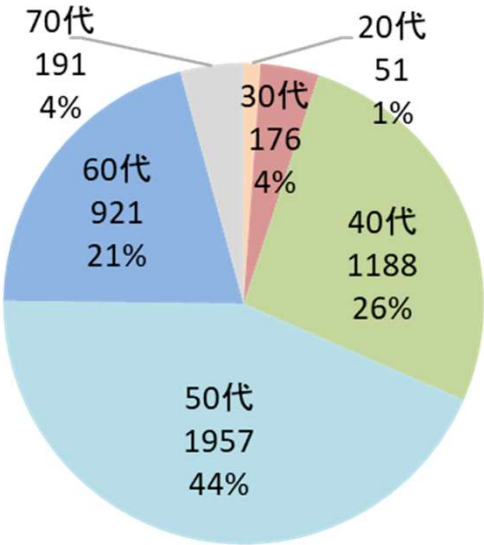


【受診者数】

	バス	タクシー	トラック	合計
事業者数	47	22	80	149
運転者数	1,899	519	2,066	4,484

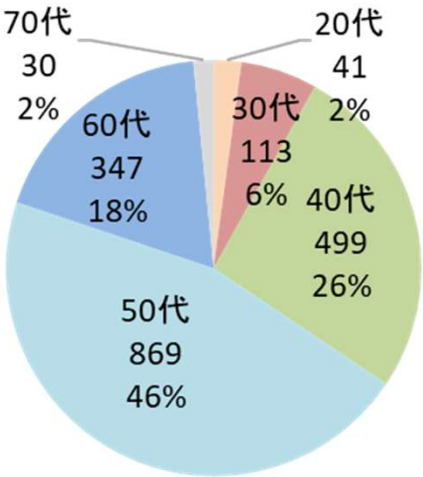
【年齢構成】

全体



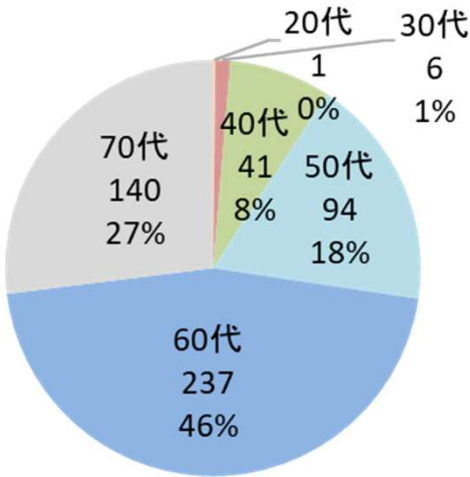
計 4,484名

バス



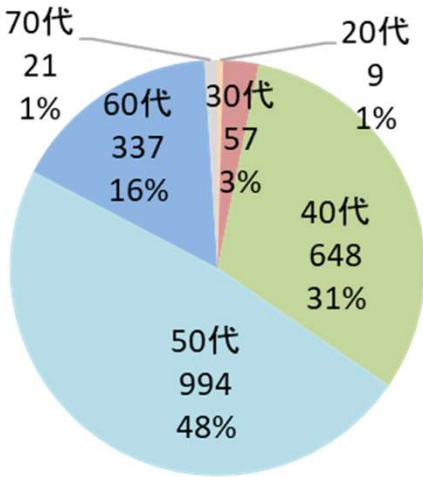
計 1,899名

タクシー



計 519名

トラック



計 2,066名

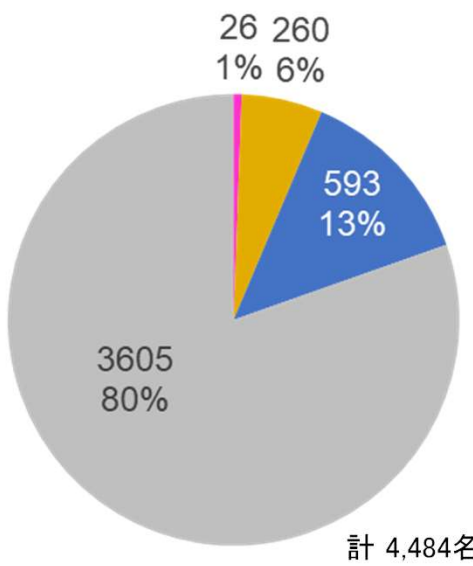
1. 令和2年度 脳健診受診結果

年度	R1	R2	R3
1,200人	●	●	●
4,000人	●	●	●
4,500人	●	●	●

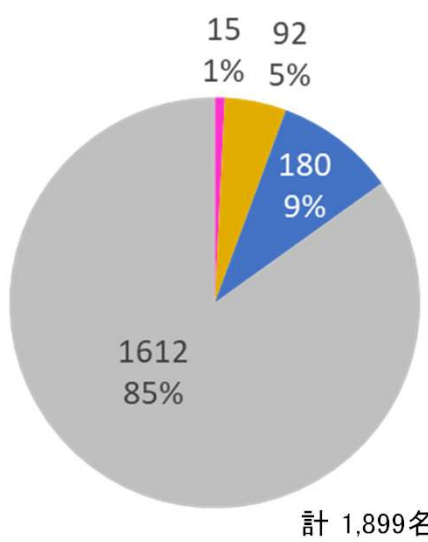
【受診結果】

- (1) 全受診者のうち「**異常所見あり(緊急性あり)**」と診断された運転者は、計26名(0.6%)
(バス:15名、タクシー:7名、トラック:4名)
- (2) 全受診者のうち「**異常所見あり(緊急性なし)**」と診断された運転者は、計260名(5.8%)
(バス:92名、タクシー:53名、トラック:115名)
- (3) 全受診者のうち「**異常所見の疑いあり**」と診断された運転者は、計593名(13.2%)
(バス:180名、タクシー:151名、トラック:262名)

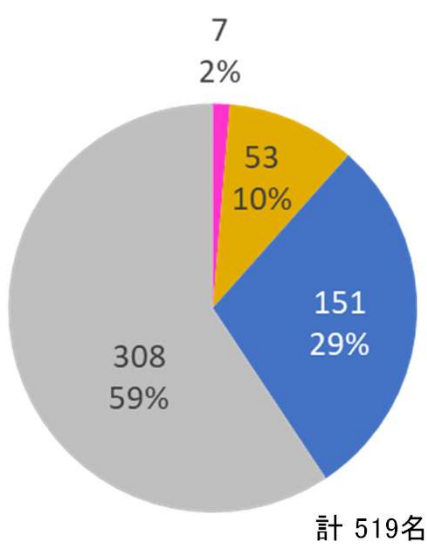
全体



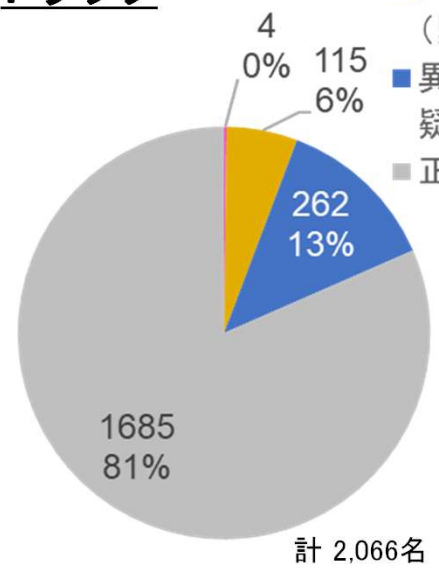
バス



タクシー

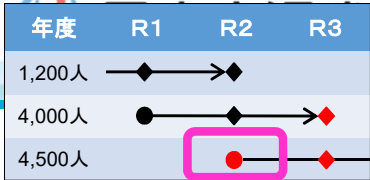


トラック



- 異常所見あり(緊急性あり)
- 異常所見あり(緊急性なし)
- 異常所見の疑いあり
- 正常

1. 令和2年度 脳健診受診結果



【受診結果(業態×年齢)】

※各セルの%の値は各行の右端の合計との比率

業態	年齢	異常所見あり (緊急性あり)		異常所見あり (緊急性なし)		異常所見の疑いあり		正常		合計
バス	10代	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0
	20代	0	(0.0%)	1	(2.4%)	1	(2.4%)	39	(95.1%)	41
	30代	0	(0.0%)	1	(0.9%)	2	(1.8%)	110	(97.3%)	113
	40代	1	(0.2%)	22	(4.4%)	64	(12.8%)	412	(82.6%)	499
	50代	5	(0.6%)	50	(5.8%)	63	(7.2%)	751	(86.4%)	869
	60代	8	(2.3%)	17	(4.9%)	46	(13.3%)	276	(79.5%)	347
	70代	1	(3.3%)	1	(3.3%)	4	(13.3%)	24	(80.0%)	30
	小計	15	(0.8%)	92	(4.8%)	180	(9.5%)	1,612	(84.9%)	1,899
タクシー	10代	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0
	20代	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(100.0%)	1
	30代	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(16.7%)	5	(83.3%)	6
	40代	0	(0.0%)	2	(4.9%)	5	(12.2%)	34	(82.9%)	41
	50代	2	(2.1%)	5	(5.3%)	20	(21.3%)	67	(71.3%)	94
	60代	2	(0.8%)	23	(9.7%)	62	(26.2%)	150	(63.3%)	237
	70代	3	(2.1%)	23	(16.4%)	63	(45.0%)	51	(36.4%)	140
	小計	7	(1.3%)	53	(10.2%)	151	(29.1%)	308	(59.3%)	519
トラック	10代	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0
	20代	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(11.1%)	8	(88.9%)	9
	30代	0	(0.0%)	3	(5.3%)	3	(5.3%)	51	(89.5%)	57
	40代	1	(0.2%)	27	(4.2%)	59	(9.1%)	561	(86.6%)	648
	50代	0	(0.0%)	55	(5.5%)	127	(12.8%)	812	(81.7%)	994
	60代	3	(0.9%)	29	(8.6%)	66	(19.6%)	239	(70.9%)	337
	70代	0	(0.0%)	1	(4.8%)	6	(28.6%)	14	(66.7%)	21
	小計	4	(0.2%)	115	(5.6%)	262	(12.7%)	1,685	(81.6%)	2,066
合計		26	(0.6%)	260	(5.8%)	593	(13.2%)	3,605	(80.4%)	4,484

2. 令和2年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)

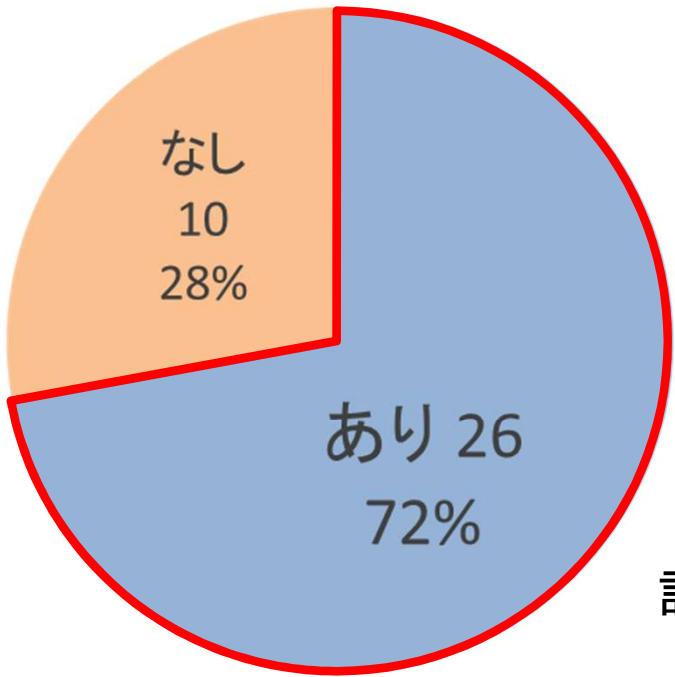
年度	R1	R2	R3
1,200人	◆	◆	◆
4,000人	●	◆	◆
4,500人	●	●	◆

【事業者の対応】

(1) 初診または精密検査にて「異常所見あり(緊急性あり)」と診断された運転者

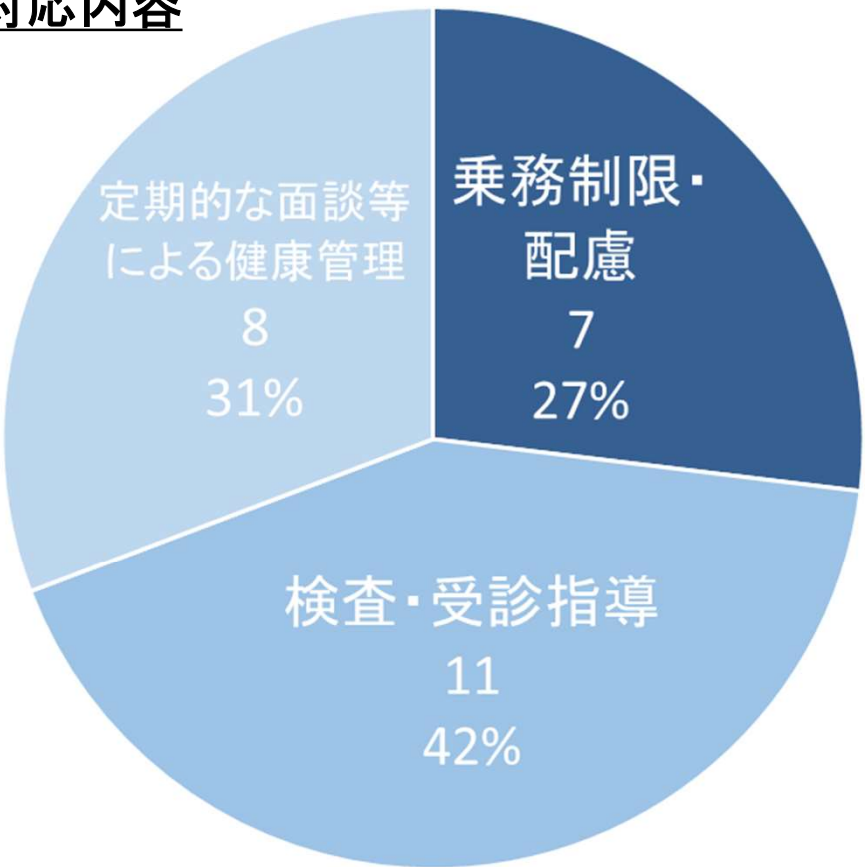
○「異常所見あり(緊急性あり)」と診断された運転者に対して、受診からおよそ半年までの間に何らかの対応をしたと回答した事業者は全体の72%

運転者に対する
事業者の対応有無

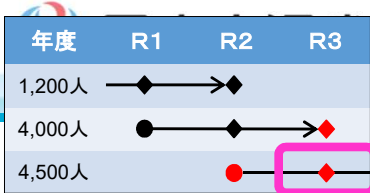


計36名
初診 26名
精密検査 10名

事業者の対応内容



2. 令和2年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)

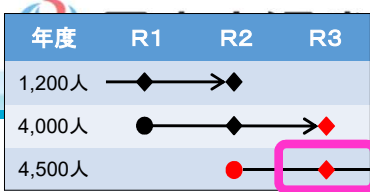


【事業者の対応】

(1)-① 事業者にて「乗務制限・配慮」をしたケース(7件)

	業態	性別	年齢	検査結果	検査結果(詳細)	治療の状況	事業者の対応	現在の状況
1	バス	男	60代	異常所見あり (緊急性あり)	左前大脳動脈瘤	入院し、未破裂脳動脈瘤の治療。その後自宅療養	[乗務制限・配慮] 病欠欠勤による休務の指示	[通常乗務] 療養を経て現在就労中
2	トラック	男	60代	↑	左後頭部葉に陳旧性の脳梗塞	2ヶ月に一度通院し、診察の上、血液さらさらにする薬と、降圧剤か血管拡張剤を服用	[乗務制限・配慮] この症状とは別に腰の具合が思わしくないので、長距離運行を控えるようにしている	[制限付き乗務] 長距離運行は控えている
3	トラック	男	40代	↑	未破裂脳動脈瘤	手術および入院加療	[乗務制限・配慮] 当面は運行業務以外の業務に従事し、半年に1度、自身で検査を受けている	[通常乗務] その後、運転業務可能との診断あり
4	バス	男	50代	異常所見あり (緊急性なし) ⇒(緊急性あり)	左中大脳動脈瘤	クリッピング手術 ⇒ 自宅療養	[乗務制限・配慮] 精密検査後手術を行い、1か月療養を経て、復帰前に主治医のほか産業医の面談で復帰可能の判断を実施	[制限付き乗務] 平日朝のみ乗務
5	タクシー	男	60代	↑	左中大脳動脈瘤	手術	[乗務制限・配慮] 事務職への配置転換	[職種変更] 配置転換後勤務
6	トラック	男	50代	↑	MRA:右中大脳動脈瘤 MRI:大脳白室慢性虚血性変化(軽度)	未破裂脳動脈瘤について手術	[乗務制限・配慮] 再検査や治療時には休暇を付与	[通常乗務] 療養を経て現在就労中
7	トラック	男	70代	↑	右前大脳動脈起始部の動脈瘤 左椎骨動脈狭窄	カテーテル手術 ステント	[乗務制限・配慮] 近郊配送を担当するように配慮し、管理者との毎月の面談と医療機関の受診勧奨を実施 ⇒ 手術後は半年に一度の定期検診、一年経過後は一年に一度の定期検診を受診させる	[制限付き乗務] 近郊配送を担当

2. 令和2年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)

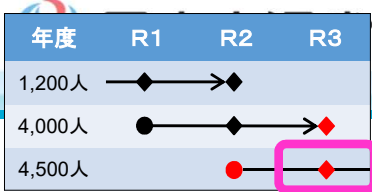


【事業者の対応】

(1)-② 事業者にて「検査・受診指導」をしたケース(11件)

	業態	性別	年齢	検査結果	検査結果(詳細)	治療の状況	事業者の対応	現在の状況
1	バス	男	60代	異常所見あり(緊急性あり)	無症候性脳梗塞と頸動脈狭窄、動脈硬化	高血圧、高脂血症であったので治療薬を服用	[検査・受診指導] 1年2回定期健康診断を受診させ、健康管理実施	[通常乗務]
2	バス	男	60代	↑	左前大脳動脈瘤の疑い	-	[検査・受診指導] 脳健診の結果返却時に受診や治療を勧奨	[通常乗務]
3	バス	男	60代	↑	左尾状核に陳旧性脳梗塞の疑い	-	[検査・受診指導] 脳健診の結果返却時に受診や治療を勧奨	[通常乗務]
4	バス	男	60代	↑	ラクナ梗塞疑い	-	[検査・受診指導] 脳健診の結果返却時に受診や治療を勧奨	[通常乗務]
5	バス	男	50代	↑	右前頭円蓋部に髄膜種の疑い ⇒ 円蓋部髄膜種	受診の結果、支障なしとなったため経過観察のみ	[検査・受診指導] 受診を勧奨	[通常乗務] 経過観察
6	バス	男	60代	↑	陳旧性脳梗塞 ⇒ 右アテローム血栓性脳梗塞後	内服加療継続	[検査・受診指導] 脳健診の結果返却時に受診や治療を勧奨	[通常乗務] 服薬
7	バス	男	60代	↑	血流が悪く、脳動脈瘤、血管狭窄あり	-	[検査・受診指導] 受診の勧奨を実施、近日中に検査受診予定	[通常乗務]
8	タクシー	男	70代	↑	脳底動脈・右後大脳動脈分岐部の、囊状動脈瘤	入院してカテーテル手術	[検査・受診指導] 診断書を提出させ、定期的な検診を指示	[退職]
9	タクシー	男	60代	↑	検査前から治療中の病気について主治医に相談	かかりつけの病院にて経過観察につき治療は特になし	[検査・受診指導] かかりつけ医への通院を勧奨するとともに定期的に経過観察の状況を確認、通院時は会社に結果を報告	[通常乗務]
10	バス	男	40代	異常所見あり(緊急性なし) ⇒ (緊急性あり)	左内頸動脈傍前床突起部動脈瘤。眼動脈分岐部動脈瘤の疑い	別病院で治療予定	[検査・受診指導] 別病院での受診勧奨を実施	[通常乗務]
11	タクシー	男	70代	↑	慢性虚血性変化、脳動脈瘤、狭窄を疑う	カテーテル検査、ステント置換手術 ⇒ ワーファリン服用、定期的に通院	[検査・受診指導] 手術を受けるように勧奨し、手術後は、3か月に1度の定期的な通院	[通常乗務] 定期的に通院

2. 令和2年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)

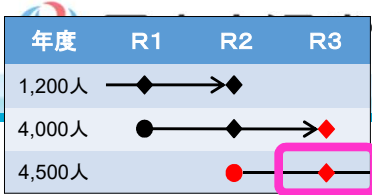


【事業者の対応】

(1)-③ 事業者にて「定期的な面談等による健康管理」をしたケース(8件)

	業態	性別	年齢	検査結果	検査結果(詳細)	治療の状況	事業者の対応	現在の状況
1	バス	男	60代	異常所見あり(緊急性あり)	右内頸動脈瘤	血圧のコントロールを実施	[定期的な面談等による健康管理] 定期的な経過観察を実施	[通常乗務]
2	バス	男	40代	↑	継続して頭部MRI・MRAの受診が必要 ⇒ 定期的にMRIを受診している	検査の結果特に問題なし ⇒ 経過観察	[定期的な面談等による健康管理] 産業医との定期的な面談に加えてほぼ毎月通院	[通常乗務] 主治医の診断、産業医の面接を経て通常乗務
3	タクシー	男	70代	↑	検査前から治療中の病気については主治医に相談	バイアスピリン錠を服用	[定期的な面談等による健康管理] 薬の服用について処方されている薬を把握し、点呼時に服用の確認をしている	[通常乗務]
4	トラック	男	60代	↑	中大脳動脈および後大脳動脈狭窄症	抗血小板剤服用	[定期的な面談等による健康管理] 点呼時に薬の服用状況を確認	[通常乗務]
5	バス	男	40代	異常所見あり(緊急性なし) ⇒(緊急性あり)	ラクナ脳梗塞、脳白質病変	頸部エコーの結果プラークあり ⇒ 高血圧、脂質異常症の治療開始	[定期的な面談等による健康管理] 保健師による健康指導の実施	[通常乗務]
6	バス	男	60代	↑	前交通動脈に未破裂脳動脈瘤	開頭クリッピング術	[定期的な面談等による健康管理] 乗務前点呼で特に注意して健康状態を確認	[通常乗務] 1年に1回自身で定期検査受診
7	バス	女	50代	↑	未破裂脳動脈瘤	カテーテル手術を実施 ⇒ 定期的に通院	[定期的な面談等による健康管理] 定期的な通院検査を行い経過観察するとともに、乗務前点呼で特に注意して健康状態を確認	[通常乗務] 病院からの指示通り通院中
8	トラック	男	50代	↑	左中大脳の閉塞、軽度の白質脳虚血性変化あり	抗血小板剤処方にて治療開始 ⇒ 定期的に通院	[定期的な面談等による健康管理] 支店長・産業医に状況を報告、情報共有を図り、定期的に経過観察を実施	[通常乗務] 服薬継続

2. 令和2年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)



【事業者の対応】

(1)-④ 事業者にて対応がなされなかったケース(10件)

	業態	性別	年齢	検査結果	検査結果(詳細)	治療の状況	事業者の対応	現在の状況
1	バス	男	70代	異常所見あり(緊急性あり)	左内頸動脈に閉塞を認める	-	(スクリーニング検査の翌日に発症)	脳梗塞発症 ※『脳血管疾患発症の状況』に記載
2	バス	男	60代	↑	血流が悪く、動脈硬化、左側の脳に脳動脈瘤	病院受診し、要経過観察となったため、高血圧症を治療しながら経過観察	特になし(所属営業所からの声掛け程度)	[通常乗務] 就業可と医師コメントあり
3	バス	男	50代	↑	脳出血や梗塞の跡あり 危険因子(高血圧や喫煙、多量飲酒、脂質異常症など)の評価と治療が必要	危険因子の治療中 ⇒ 経過観察	特になし(所属営業所からの声掛け程度)	[通常乗務] 就業可と医師コメントあり
4	バス	男	50代	↑	左上顎洞内腫瘍	再診の結果治療の必要なし	特になし	[通常乗務]
5	バス	男	60代	↑	脳委縮慢性虚血性変化、ラクナ梗塞	検査の結果特に問題なし ⇒ 経過観察	特になし	[通常乗務]
6	タクシー	男	70代	↑	左頭頂部陳旧性脳出血(無症候性)	検査の結果就業可となった	特になし	[退職]
7	タクシー	男	60代	↑	左中大脳動脈梗塞	定期通院の上で就労可能	特になし	[通常乗務] 定期通院
8	タクシー	男	50代	↑	10代30代の頃の事故(脳挫傷の跡)梗塞ではない	検査の結果就業可となった	特になし	[通常乗務] 就業可と医師コメントあり
9	タクシー	男	50代	↑	微小無症候性脳梗塞	検査の結果就業可となった	特になし	[通常乗務] 就業可と医師コメントあり
10	トラック	男	60代	↑	小梗塞、右椎骨動脈閉塞、左椎骨動脈狭窄、左頸部内頸動脈狭窄	-	特になし	[退職] 脳健診後に退職

2. 令和2年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)

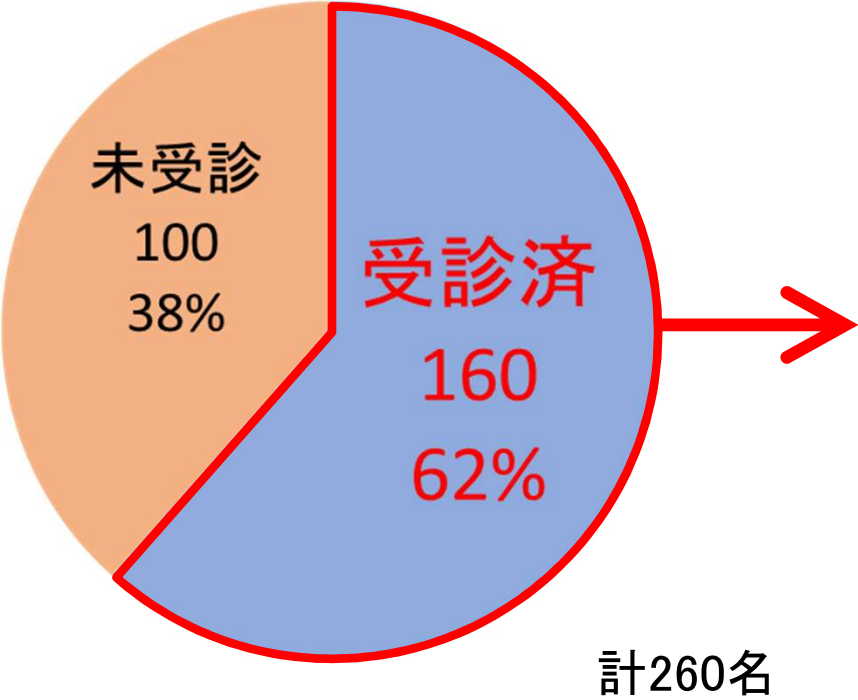
年度	R1	R2	R3
1,200人	●	●	●
4,000人	●	●	●
4,500人	●	●	●

【事業者の対応】

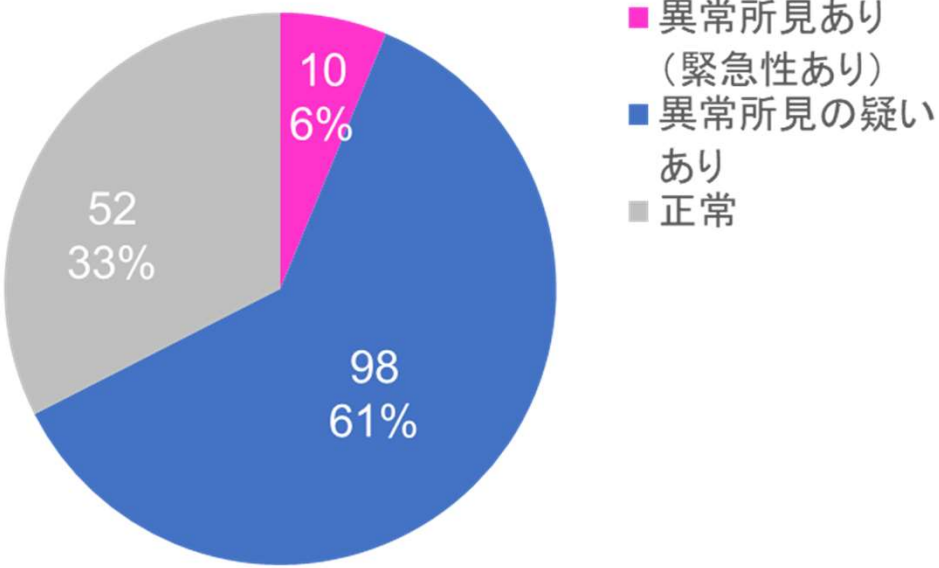
(2) 初診にて「**異常所見あり(緊急性なし)**」と診断された運転者

○「異常所見あり(緊急性なし)」と診断された運転者において、受診からおよそ半年までの間に精密検査を受診した運転者は全体の62%

精密検査受診割合



精密検査結果



精密検査後の事業者の対応については、**異常所見あり(緊急性あり)**、**異常所見の疑いあり**でまとめている通り

2. 令和2年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)

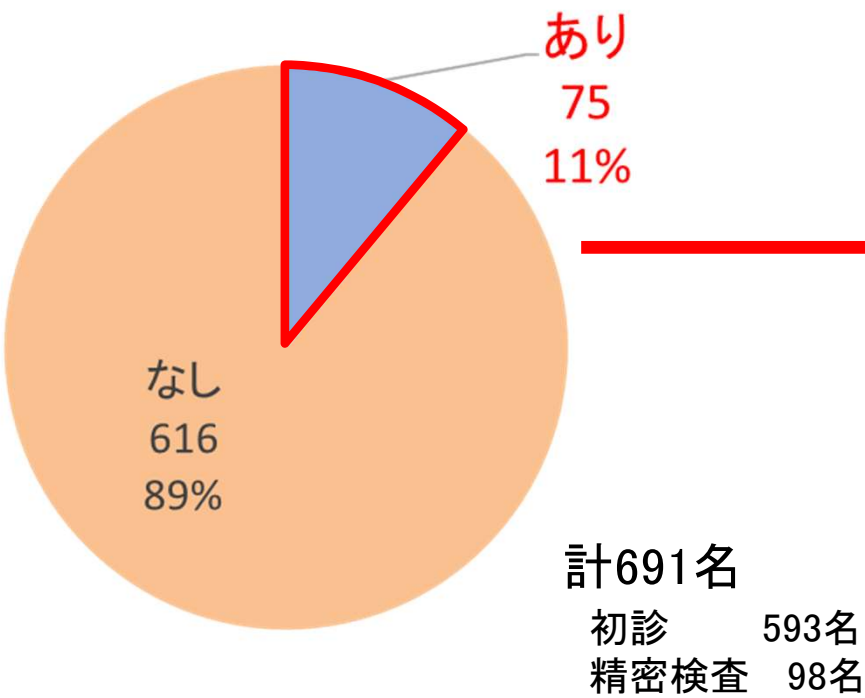
年度	R1	R2	R3
1,200人	●	●	●
4,000人	●	●	●
4,500人	●	●	●

【事業者の対応】

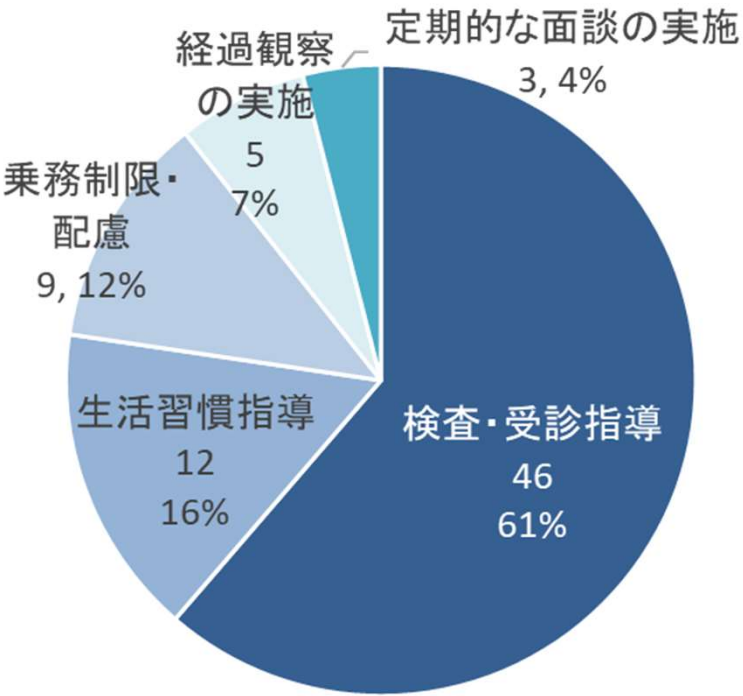
(3) 初診または精密検査にて「異常所見の疑いあり」と診断された運転者

○「異常所見の疑いあり」と診断された運転者に対して、受診からおよそ半年までの間に何らかの対応をしたと回答した事業者は全体の11%

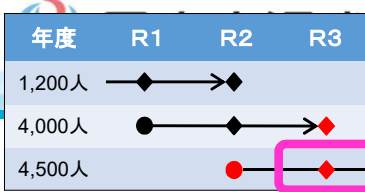
運転者に対する
事業者の対応有無



事業者の対応内容



2. 令和2年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)



【脳血管疾患発症の状況】

- 令和2年度に受診した4,484名のうち、健診後に脳血管疾患を発症したのは9名
- 脳血管疾患に起因する事故は発生していない

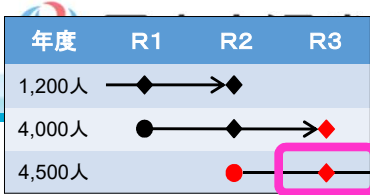
※令和3年12月時点報告分(4,389名)

初診の診断結果	初診または精密検査にて 検出された 異常所見(緊急性あり)	健診後に発症した 脳血管疾患患者	脳血管疾患に 起因する事故件数
異常所見あり(緊急性あり)(26名)	26名	1名	0件
異常所見あり(緊急性なし)(260名)	10名	0名	0件
異常所見の疑いあり(593名)	0名	1名	0件
正常(3,605名)	0名	7名	0件



	業態	性別	年齢	R2年度診断 結果	精密検査 の結果	事業者の対応 (発症前)	発症した脳血 管疾患の種類	発症した 時期	事業者の対応 (発症後)	現在の状況
1	バス	男	70代	異常所見あり (緊急性あり)	-	-	脳梗塞	R3年3月 (スク リーニ ング検 査の翌日)	[乗務制限・配慮] 入院後に退院、その後休職させ、乗 務復帰せずに休職中に退職	[退職]

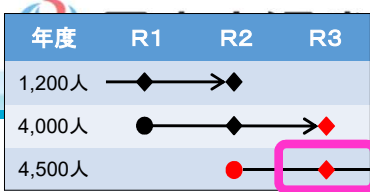
2. 令和2年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)



【脳血管疾患発症の状況】

	業態	性別	年齢	R2年度診断結果	精密検査の結果	事業者の対応(発症前)	発症した脳血管疾患の種類	発症した時期	事業者の対応(発症後)	現在の状況
2	トラック	男	50代	異常所見の疑いあり	-	-	一過性脳虚血性発作	R3年8月	[乗務制限・配慮] 保存的加療目的で入院し、職場復帰後は、勤務時間短縮からはじめ、徐々に通常勤務へ移行	[通常乗務] 現在は通常勤務
3	バス	男	40代	正常	-	-	両側慢性硬膜下血腫 右再発性慢性硬膜下血腫	R3年1月	[乗務制限・配慮] 発症翌日に手術を受け、リハビリを経て1か月後に医師から復帰可能との診断を受けた。その後は、仕事復帰し通常勤務。	[通常乗務] 医師より復帰可能と診断された為、乗務へ復帰
4	バス	男	50代	↑	-	- 発症までの状況について詳細確認中	くも膜下出血	R3年5月	[乗務制限・配慮] 発症同日脳動脈溜頸部クリッピング手術を行い、入院加療。 退院後も以後定期的に通院検査実施。復帰後は乗務前点呼で特に注意して健康状態を確認 発症時の状況について詳細確認中	[通常乗務] 現在は勤務制限なし

2. 令和2年度 脳健診受診者の追跡調査結果(1年目)



【脳血管疾患発症の状況】

	業態	性別	年齢	R2年度診断結果	精密検査の結果	事業者の対応(発症前)	発症した脳血管疾患の種類	発症した時期	事業者の対応(発症後)	現在の状況
5	バス	男	50代	正常	-	-	脳梗塞	R3年4月	[乗務制限・配慮] 発症後に入院。転院後は、以後通院をしながら治療中(投薬と運動)	[自宅療養] 休職中
6	タクシー	男	60代	↑	-	-	脳梗塞	R3年6月	[乗務制限・配慮] 深夜勤務、隔日勤務なしの短時間勤務および治療後の事故多発に伴う下車勧告	[退職] その後退職
7	トラック	男	50代	↑	-	-	脳梗塞	R3年8月	[乗務制限・配慮] 自宅で発症後入院し、その後退院して現在自宅療養中 事業者としては全快するまで治療最優先にするよう指導	[自宅療養] 休職中
8	トラック	男	40代	↑	-	-	脳梗塞	R3年3月	[乗務制限・配慮] 発症後休職させ入院・服薬治療し、復帰後は軽量配送へ配置転換	[制限付き乗務] 軽量配送への配置転換
9	トラック	男	50代	↑	-	-	脳梗塞	R2年12月	[乗務制限・配慮] 発症後に入院加療、リハビリを経て退院し、現在自宅療養中で、定期通院対策などはまだ決まっていない	[自宅療養] 休職中

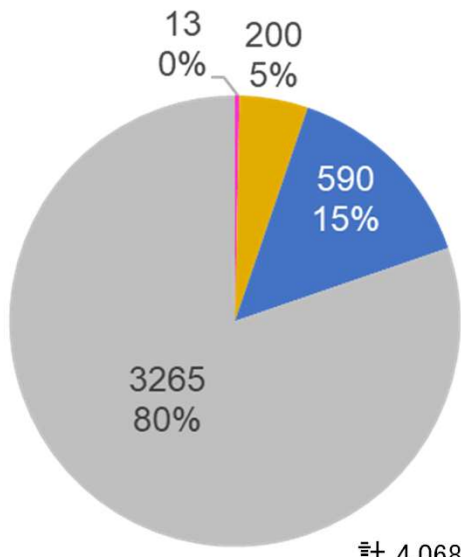
3. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)

年度	R1	R2	R3
1,200人	●	●	●
4,000人	●	●	●
4,500人	●	●	●

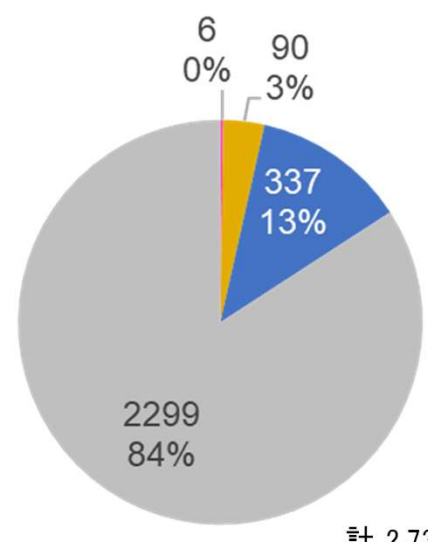
【受診結果】

- (1) 全受診者のうち「**異常所見あり(緊急性あり)**」と診断された運転者は、計13名(0.3%)
(バス:6名、タクシー:3名、トラック:4名)
- (2) 全受診者のうち「**異常所見あり(緊急性なし)**」と診断された運転者は、計200名(4.9%)
(バス:90名、タクシー:16名、トラック:94名)
- (3) 全受診者のうち「**異常所見の疑いあり**」と診断された運転者は、計590名(15%)
(バス:337名、タクシー:73名、トラック:180名)

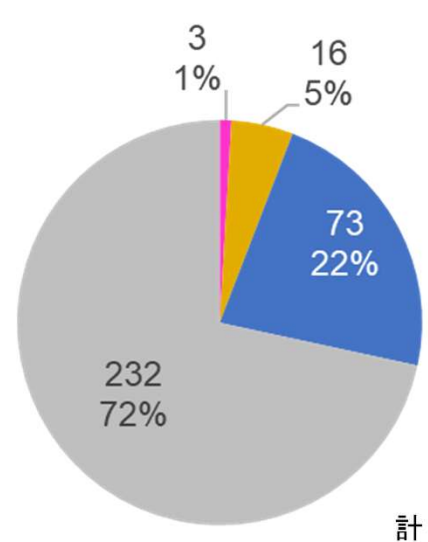
全体



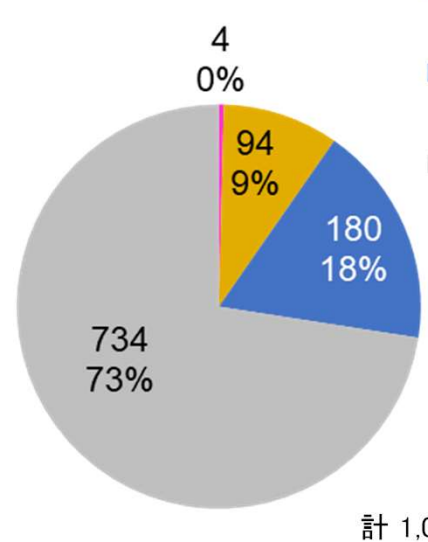
バス



タクシー

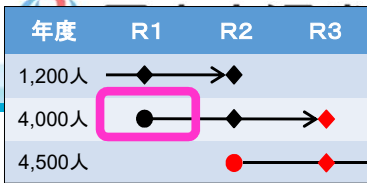


トラック



- 異常所見あり(緊急性あり)
- 異常所見あり(緊急性なし)
- 異常所見の疑いあり
- 正常

3. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)

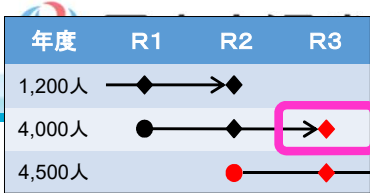


【受診結果(モード×年齢)】

※各セルの%の値は各行の右端の合計との比率

業態	年齢	異常所見あり (緊急性あり)		異常所見あり (緊急性なし)		異常所見の疑いあり		正常		合計
バス	10代	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0
	20代	0	(0.0%)	1	(2.9%)	2	(5.7%)	32	(91.4%)	35
	30代	0	(0.0%)	2	(1.8%)	4	(3.7%)	103	(94.5%)	109
	40代	1	(0.1%)	14	(1.4%)	130	(13.3%)	831	(85.1%)	976
	50代	3	(0.3%)	48	(4.1%)	138	(11.9%)	968	(83.7%)	1,157
	60代	2	(0.5%)	18	(4.7%)	49	(12.9%)	310	(81.8%)	379
	70代	0	(0.0%)	7	(9.2%)	14	(18.4%)	55	(72.4%)	76
	小計	6	(0.2%)	90	(3.3%)	337	(12.3%)	2,299	(84.2%)	2,732
タクシー	10代	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0	(—)	0
	20代	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(100.0%)	2
	30代	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(100.0%)	1
	40代	0	(0.0%)	1	(2.3%)	12	(27.3%)	31	(70.5%)	44
	50代	0	(0.0%)	7	(7.3%)	42	(43.8%)	47	(49.0%)	96
	60代	3	(2.3%)	4	(3.1%)	15	(11.7%)	106	(82.8%)	128
	70代	0	(0.0%)	4	(7.5%)	4	(7.5%)	45	(84.9%)	53
	小計	3	(0.9%)	16	(4.9%)	73	(22.5%)	232	(71.6%)	324
トラック	10代	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(100.0%)	1
	20代	0	(0.0%)	1	(5.6%)	0	(0.0%)	17	(94.4%)	18
	30代	0	(0.0%)	4	(4.6%)	9	(10.3%)	74	(85.1%)	87
	40代	2	(0.7%)	17	(5.8%)	45	(15.4%)	228	(78.1%)	292
	50代	1	(0.2%)	44	(9.9%)	83	(18.7%)	317	(71.2%)	445
	60代	1	(0.7%)	25	(16.4%)	39	(25.7%)	87	(57.2%)	152
	70代	0	(0.0%)	3	(17.6%)	4	(23.5%)	10	(58.8%)	17
	小計	4	(0.4%)	94	(9.3%)	180	(17.8%)	734	(72.5%)	1,012
合計		13	(0.3%)	200	(4.9%)	590	(14.5%)	3,265	(80.3%)	4,068

3. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)



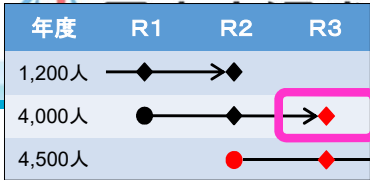
【事業者の対応】

(1) 初診または精密検査にて「異常所見あり(緊急性あり)」と診断された運転者
計27名（初診13名、精密検査14名）

(1)-① 事業者にて「乗務制限・配慮」をしたケース(4件)

	業態	性別	年齢	追跡調査(1年目)		追跡調査(2年目)		
				治療状況	事業者の対応	治療状況	事業者の対応	現在の状況
1	バス	女	50代	腫瘍の摘出手術 ⇒療養中	[乗務制限・配慮] 自宅療養としているが、本人から復 帰の意思表示があれば主治医及 び産業医の意見を踏まえ対応決定	療養後は事務員として 復帰	[乗務制限・配慮] 事務員復帰後1か月は様子見し、その 後、通常乗務へ復帰している	[通常乗務] 配置転換後に通 常乗務復帰
2	バス	女	40代	手術	[乗務制限・配慮] 手術にあたっての休暇調整、復帰 に向けた研修実施	-	[乗務制限・配慮] 手術後は、休暇調整や研修を経て復 帰。復帰後は、点呼時に健康状況の確 認をしている。	[通常乗務]
3	トラック	男	40代	減塩、野菜、果物の 摂取、有酸素運動 の継続実施 1年毎の画像フォ ローアップ	[乗務制限・配慮] 助手の作業(できる限り重量の軽 い作業)を優先 運転の場合は近距離を優先	引き続き、減塩、野菜、 果物の摂取、有酸素運 動の継続および画像 フォローを実施	[乗務制限・配慮] 深夜早朝の仕事をできる限り少なくし、 長時間労働にならないよう配慮してい る	[制限付乗務] 深夜早朝の勤務 は避けて、長時 間労働にならない よう配慮
4	トラック	男	50代	脳血管内ステント手 術 ⇒6か月毎健診	[乗務制限・配慮] 術後しばらくは場内作業で、徐々に 近距離運転業務へ復職 定期的に面談し体調の確認	定期的に健診	[乗務制限・配慮] 対応継続、定期的な面談や近距離運 行	[制限付乗務] 近距離運行 6か月毎健診

3. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)

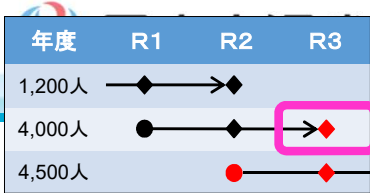


【事業者の対応】

(1)-② 事業者にて「検査・受診指導」をしたケース(9件)

	業態	性別	年齢	追跡調査(1年目)		追跡調査(2年目)		
				治療状況	事業者の対応	治療状況	事業者の対応	現在の状況
1	バス	男	60代	コイル塞栓術施行 ⇒定期的に通院	[乗務制限・配慮] 手術後、医師の指示に従い空車訓練を実施した後、業務復帰	定期的に通院して、薬を服用。半年に1度脳MRI検査実施	[検査・受診指導] 半年に1度脳MRI検査を指示	[通常乗務] 半年ごとに脳MRI検査
2	タクシー	男	60代	-	[検査・受診指導] 専門医にて再検査の受診を促す	-	[検査・受診指導] 専門医にて再検査の受診を促す	[通常乗務]
3	タクシー	男	60代	-	[検査・受診指導] 専門医にて再検査の受診を促す	-	[検査・受診指導] 専門医にて再検査の受診を促す	[通常乗務]
4	タクシー	男	60代	-	[検査・受診指導] 専門医にて再検査の受診を促す	-	[検査・受診指導] 専門医にて再検査の受診を促す	[通常乗務]
5	トラック	男	60代	-	[検査・受診指導] 専門医にて再検査の受診を促す	-	[検査・受診指導] 受診指導を実施し、3カ月に1回は健康状態確認の上、結果に応じて再診指導	[通常乗務]
6	トラック	男	40代	左脳動脈瘤クリッピング術 ⇒3～5年毎に受診	[検査・受診指導] 検査内容が重篤だったため、早急な受診・治療を指示	-	[検査・受診指導] 3～5年毎に検査を受けるように勧奨 勤務制限については特になし	[通常乗務] 3～5年毎に受診
7	トラック	男	60代	手術 ⇒定期的に通院	[検査・受診指導] 手術のための勤務調整	定期的に通院し経過観察	[検査・受診指導] 経過観察を実施しており、勤務制限等については特になし	[通常乗務] 定期的に通院
8	バス	男	50代	-	-	運転業務に問題なしとのことなのでなし	[検査・受診指導] 受診勧奨をしており、前回受診から時間が経過しているため再度受診勧奨	[通常乗務] 運転に問題なしの医師コメント
9	トラック	男	50代	-	-	かかりつけ医と相談の上、持病の心疾患を優先して治療し、脳動脈瘤は未治療	[検査・受診指導] 事業者としては、脳動脈瘤についても定期的に受診するよう勧奨	[制限付乗務] 日勤の業務に就くよう配慮をしている

3. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)

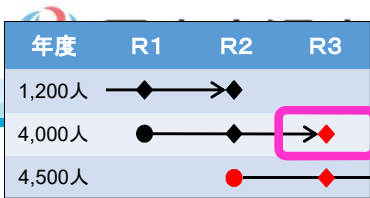


【事業者の対応】

(1)-③ 事業者にて「定期的な面談等による健康管理」をしたケース(4件)

	業態	性別	年齢	追跡調査(1年目)		追跡調査(2年目)		
				治療状況	事業者の対応	治療状況	事業者の対応	現在の状況
1	バス	男	50代	コイル塞栓術施行 ⇒ 抗血栓薬・降圧剤内服し、1年ごとのMRI検査	[定期的な面談等による健康管理] 術後まで休みとし、術後教習を経て運転業務に復帰 定期的に保健師による面談	降圧剤のみ服用し、経過観察を継続	[定期的な面談等による健康管理] 引き続き面談で経過観察を実施している	[通常乗務]
2	バス	男	50代	未破裂左右中大脳動脈瘤切除 ⇒ 経過観察	[定期的な面談等による健康管理] 定期的に通院し、結果を報告させ管理 乗務前点呼で特に注意して健康状態を確認	手術後、3, 6, 12か月後に定期的に検査を実施	[定期的な面談等による健康管理] 定期的に医師の診断を受け、指示に従うように指示 乗務前点呼で特に注意して健康状態を確認	[通常乗務] 定期的に通院
3	バス	男	50代	治療完了 ⇒ 定期的に通院	[定期的な面談等による健康管理] 定期的に通院し、結果を報告させ管理 乗務前点呼で特に注意して健康状態を確認	半年に1回、自身で医療機関の検査	[定期的な面談等による健康管理] 乗務前点呼で特に注意して健康状態を確認	[通常乗務] 定期的に通院
4	トラック	男	40代	動脈瘤の除去手術 ⇒ 定期的に通院	[定期的な面談等による健康管理] 治療最優先で勤務調整 受診ごとに状況を報告させる	定期的に通院	[定期的な面談等による健康管理] 通院に加えて、社保傷病手当金の対応を実施している	[通常乗務] 定期的に通院

3. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)

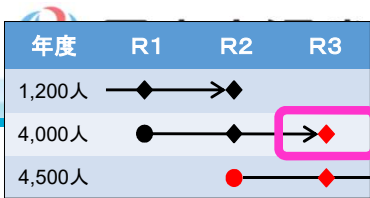


【事業者の対応】

(1)-④ 事業者にて対応がなされなかったケース(10件)

	業態	性別	年齢	追跡調査(1年目)		追跡調査(2年目)		
				治療状況	事業者の対応	治療状況	事業者の対応	現在の状況
1	バス	男	50代	カテーテル手術 ⇒ 定期的に通院	[乗務制限・配慮] 所属長でもあるため、現在は乗務禁止としている 定期的に受診させ、結果を報告させる	引き続き経過観察	特に勤務制限等事業者対応についてはなし	[通常勤務]
2	トラック	男	50代	手術して切除 ⇒ 定期的に通院	[乗務制限・配慮] 近距離運行のみに変更し、本人と面談をしながら運行予定を組む	定期的に通院	医師より通常勤務で問題なしとのコメントがあり、現在は制限は設けていない	[通常乗務]
3	バス	男	50代	クリッピング術 ⇒ 半年後のMRI検査で異常なし	[定期的な面談等による健康管理] 主治医の指示に従い、療養させたのち運転復帰 毎月、健康管理面談を実施 乗務前点呼で特に注意して健康状態を確認	-	現在は特別な対応はしていない	[通常乗務]
4	バス	男	50代	カテーテルによるコイル挿入手術	[定期的な面談等による健康管理] 手術希望という本人申出を受け、勤務調整術後一週間は時短勤務によって見極め健康状態を書面にて提出させ確認	手術後は特になし	通常勤務後は特になし	[通常乗務] 手術後は時短勤務、その後就労制限等なし

3. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)



【事業者の対応】

(1)-④ 事業者にて対応がなされなかったケース(10件)

	業態	性別	年齢	追跡調査(1年目)		追跡調査(2年目)		
				治療状況	事業者の対応	治療状況	事業者の対応	現在の状況
5	バス	男	40代	カテーテル手術 ⇒ 自宅療養	[乗務制限・配慮] 医師の指示に従い自宅療養させる	病欠(自宅療養)中に脳梗塞	休職したのちに退職	[退職]
6	バス	男	60代	カテーテル手術 ⇒ 自宅療養	[乗務制限・配慮] 本人希望もあり精密検査結果が出るまで自宅療養	自宅療養継続	手術後自宅療養中に退職	[退職]
7	バス	男	50代	抗血小板の内服治療継続中	[定期的な面談等による健康管理] 健康状態および服薬状況を書面にて提出させ確認	内服治療継続	退職のため追跡不可	[退職]
8	バス	男	40代	ガンマナイフ ⇒ 定期的に通院	[定期的な面談等による健康管理] 産業医及び保健師が受診結果を踏まえて面談を実施	-	退職のため特になし	[退職]
9	バス	男	60代	-	-	-	退職をしたため詳細不明	[退職]
10	バス	男	50代	内服治療	-	-	退職のため特になし	[退職]

3. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)

年度	R1	R2	R3
1,200人	●	●	●
4,000人	●	●	●
4,500人	●	●	●

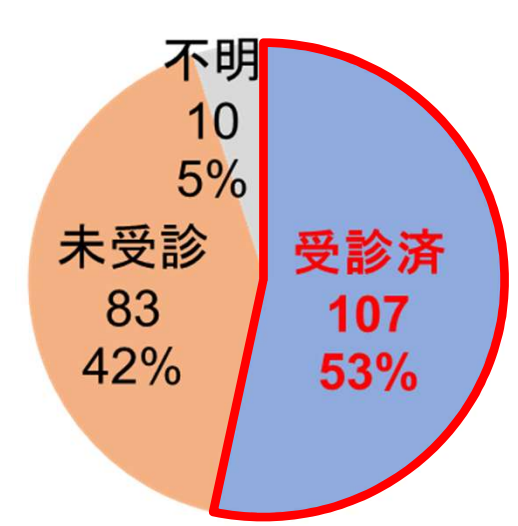
【事業者の対応】

(2) 初診にて「異常所見あり(緊急性なし)」と診断された運転者

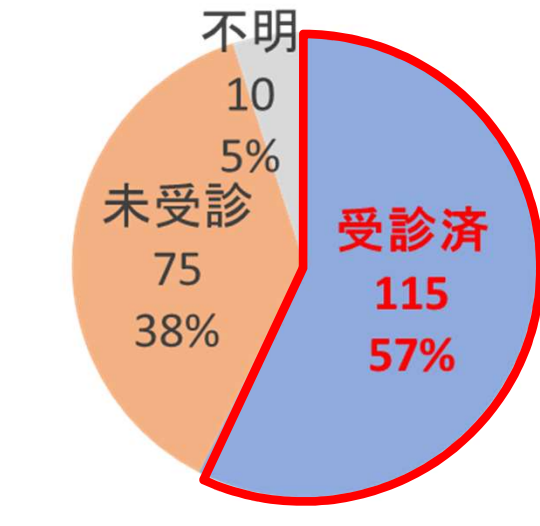
○「異常所見あり(緊急性なし)」と診断された運転者において、その後、2年目までに精密検査を受診した運転者は全体の57%

精密検査受診割合

1年目

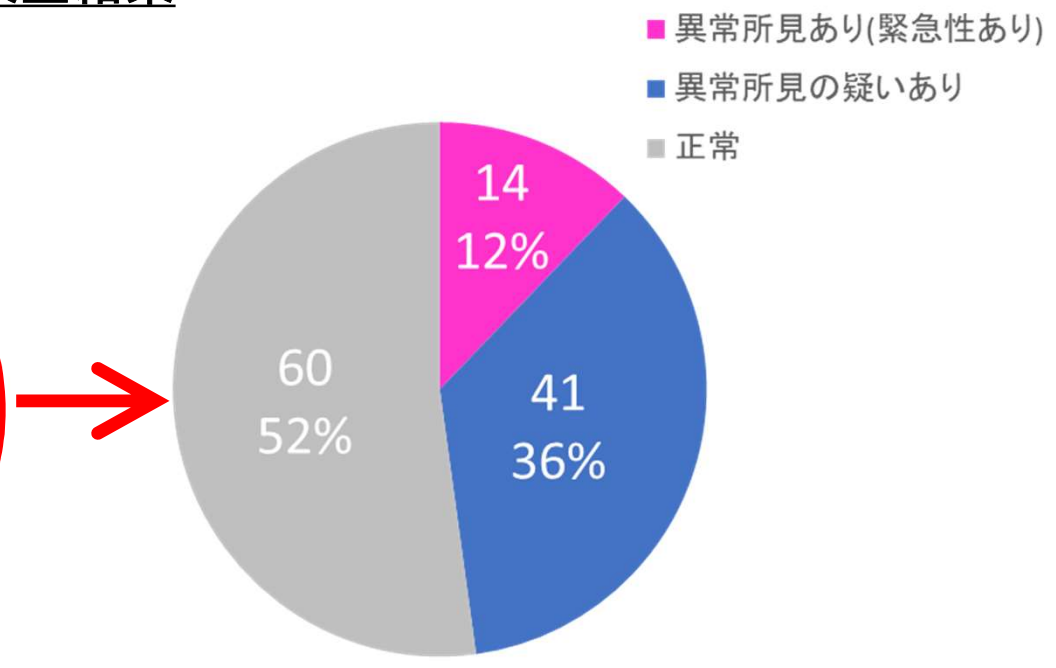


2年目



※1年目未受診者8名が新たに受診

精密検査結果



精密検査後の事業者の対応については、
異常所見あり(緊急性あり)、異常所見の疑いあり
でまとめている通り

3. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)

年度	R1	R2	R3
1,200人	→	→	→
4,000人	●	●	→
4,500人		●	●

【事業者の対応】

(3) 初診または精密検査にて「異常所見の疑いあり」と診断された運転者

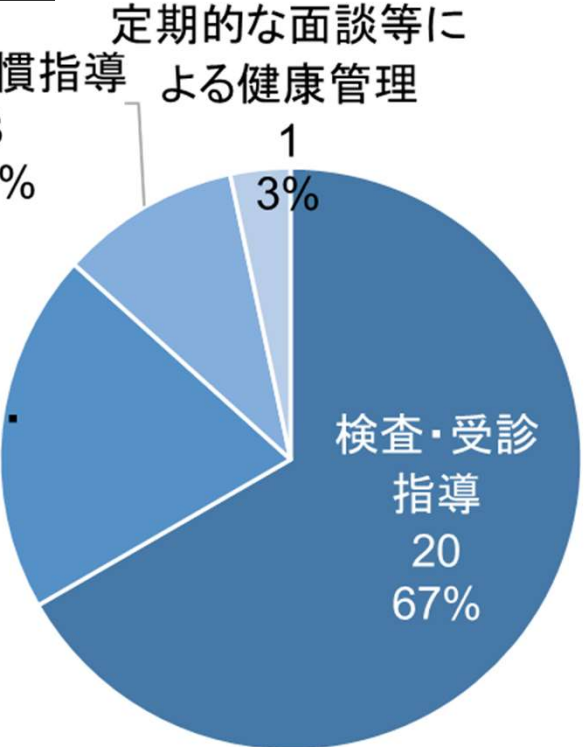
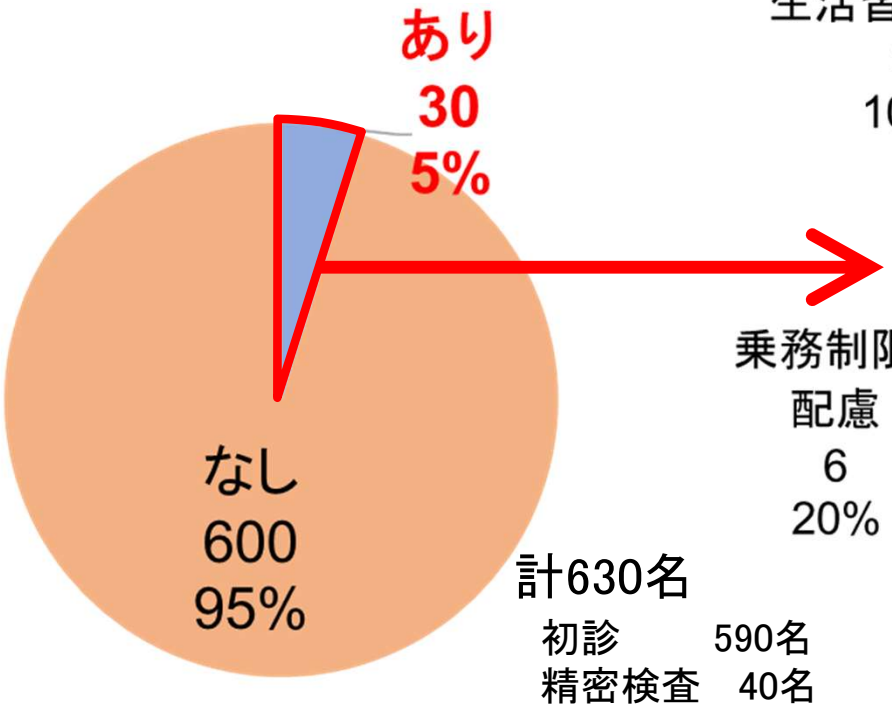
○「異常所見の疑いあり」と診断された運転者に対して、何らかの対応をしたと回答した事業者は全体の5%

1年目

2年目

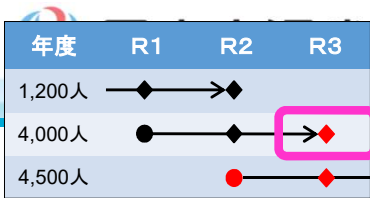
運転者に対する事業者の対応有無

事業者の対応内容



1年目から変化なし

3. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)



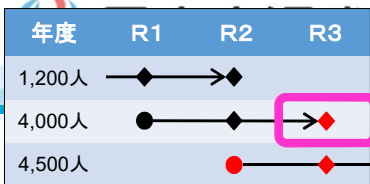
【脳血管疾患発症の状況】

- 令和元年度に脳健診を受診した4,068名のうち、健診後、
脳血管疾患を1年目に発症したのは1名、2年目に発症したのは2名
- 他方、脳血管疾患に起因する事故は発生していない

※令和3年12月時点報告分(4,000名)

診断結果	初診または精密 検査にて 検出された 異常所見 (緊急性あり)	追跡調査(1年目)		追跡調査(2年目)	
		脳血管疾患 発症者数	脳血管疾患に 起因する 事故件数	脳血管疾患 発症者数	脳血管疾患に 起因する 事故件数
異常所見あり (緊急性あり)(13名)	13名	0名	0件	0名	0件
異常所見あり (緊急性なし)(200名)	14名	0名	0件	0名	0件
異常所見の疑いあり (590名)	0名	0名	0件	+2名	0件
正常(3,265名)	0名	1名	0件	0名	0件

3. 令和元年度 脳健診受診者の追跡調査結果(2年目)



【脳血管疾患発症の状況】

	業態	性別	年齢	R1年度診断結果	精密検査の結果	事業者の対応(発症前)	発症した脳血管疾患の種類	発症した時期	事業者の対応(発症後)	現在の状況
1	バス	男	50代	正常	-	-	小脳梗塞	R2年8月	[定期的な面談等による健康管理] 産業医面談や医師の診断結果を踏まえ運転業務に復帰させる 乗務前点呼にて血圧測定結果などを確認しつつ当該運転者の健康に注意している	[通常乗務] 通院加療中
2	バス	男	50代	(異常所見の疑いあり) 大脳白質病変を認め、経過観察	-	-	左外傷慢性硬膜下血腫	R3年12月	[乗務制限・配慮] 発症後に入院。一度退院するも安静加療中に再度入院。	[入院中] 入院加療中
3	トラック	男	30代	(異常所見の疑いあり) ラトケのう胞疑い ⇒様子観察、1～2年に1度は経過観察	-	-	クモ膜下出血	R2年9月	[乗務制限・配慮] 自宅療養を経て復帰 構内作業へと配置転換変更	[制限付勤務] 構内作業

1年目

2年目

モデル事業参加事業者に対するアンケート調査結果

【好事例、実施した結果に対する効果等】

追跡調査対象事業者のうち116社から回答あり ※複数の回答をした事業者あり

アンケート回答内容 ※類似回答にて分類	回答事業者数	割合
運転者自身の意識向上につながった	48	41.4%
早期発見につながったことが良かった	30	25.9%
運転者の健康状態が分かったことで安心感が得られた	22	19.0%
会社全体での健康起因事故防止に係る取組み増進等につながった	11	9.5%
脳健診を受診する機会が得られた	10	8.6%
生活習慣病等の予防・改善につながった	10	8.6%
会社が運転者の健康管理をする際に活用できた	10	8.6%
定期的な検査の重要性について理解した	7	6.0%
社外に対して健康管理を重要視しているということのアピールができた	4	3.4%
脳健診によってコミュニケーションが促進された	3	1.7%
脳健診で異常があっても乗務復帰可能の前例ができた	1	0.9%
その他	5	4.3%

【課題、実施した際に気付いた点等】

追跡調査対象事業者のうち74社から回答あり ※複数の回答をした事業者あり

アンケート回答内容 ※類似回答にて分類	回答事業者数	割合
脳健診及び精密検査(再検査)受診の費用負担が大きい	32	43.2%
診断結果を受けての対応が難しい	15	20.3%
脳健診の予約が取りづらい・受診医療機関が少ない	9	12.2%
閉所恐怖症などのMRI不適合者への対応に苦慮	8	10.8%
受診する運転者および運転不可と診断された運転者に対する代替運転者の確保が困難	7	9.5%
従業員の受診管理が難しい	6	8.1%
検査結果が説明不足であるなど分かりづらい	3	4.1%
病院によって検査内容や費用が異なる	2	2.7%
脳健診の受診頻度設定に苦慮	2	2.7%
定期的な受診をさせることが難しい	2	2.7%
診断結果を受けての退職や就労辞退が発生した	2	2.7%
その他	10	13.5%